

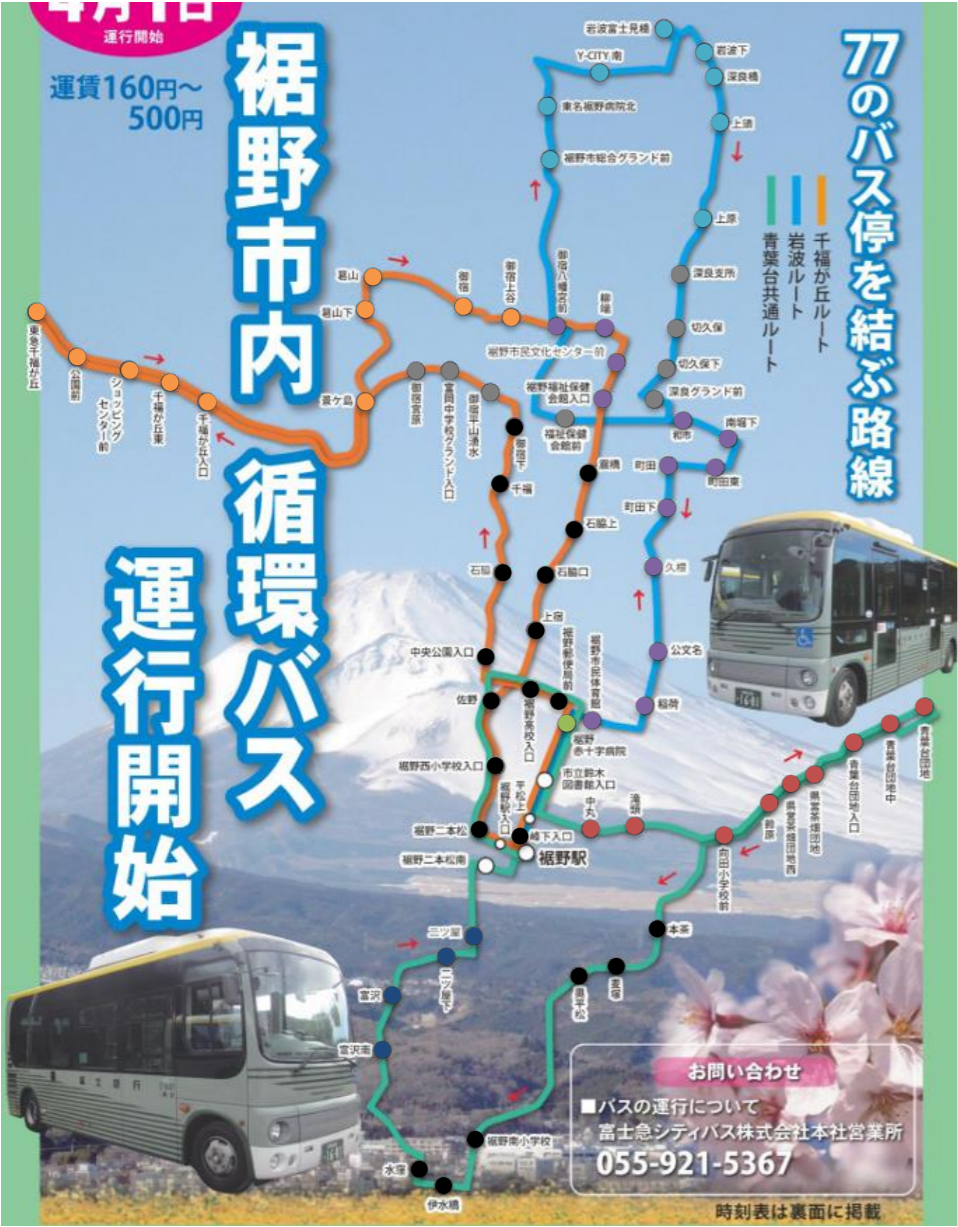
# 裾野市内循環線の利用状況把握について

---

1. 新旧バスルートの利用者数の比較
2. 『どこから乗って、どこで降りたか』の自動調査の検討

# 新旧バスルートと比較エリア

## 旧ルート



- 青葉台エリア } 青葉台ルート
- 富沢エリア } 青葉台ルート
- 千福が丘エリア } 千福が丘ルート
- 岩波エリア } 岩波ルート
- 重複エリア } 岩波ルート&千福が丘ルート&青葉台ルート
- 買物エリア } 岩波ルート&千福が丘ルート&青葉台ルート
- 病院エリア } 岩波ルート&千福が丘ルート&青葉台ルート

- 本運行の廃止バス停
- 本運行の短縮ルートバス停

## 新ルート



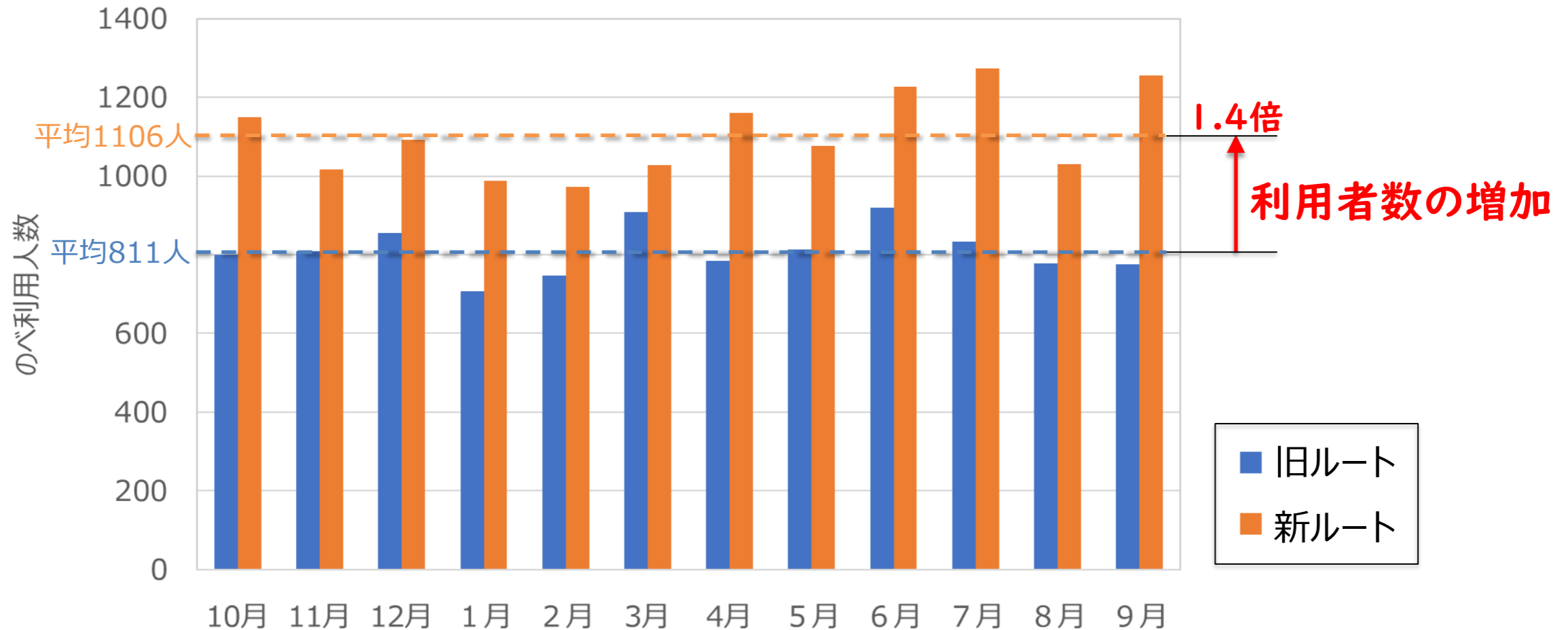
24.10に改編した  
裾野市内循環線の  
利用状況を調査

# 新旧バスルートの利用者数比較（月ごと）

## データの結果

旧ルート: 2022.10~2023.9

新ルート: 2024.10~2025.9



利用者数は約1.4倍に増加

# 新旧バスルートの利用者数比較（エリアごと）

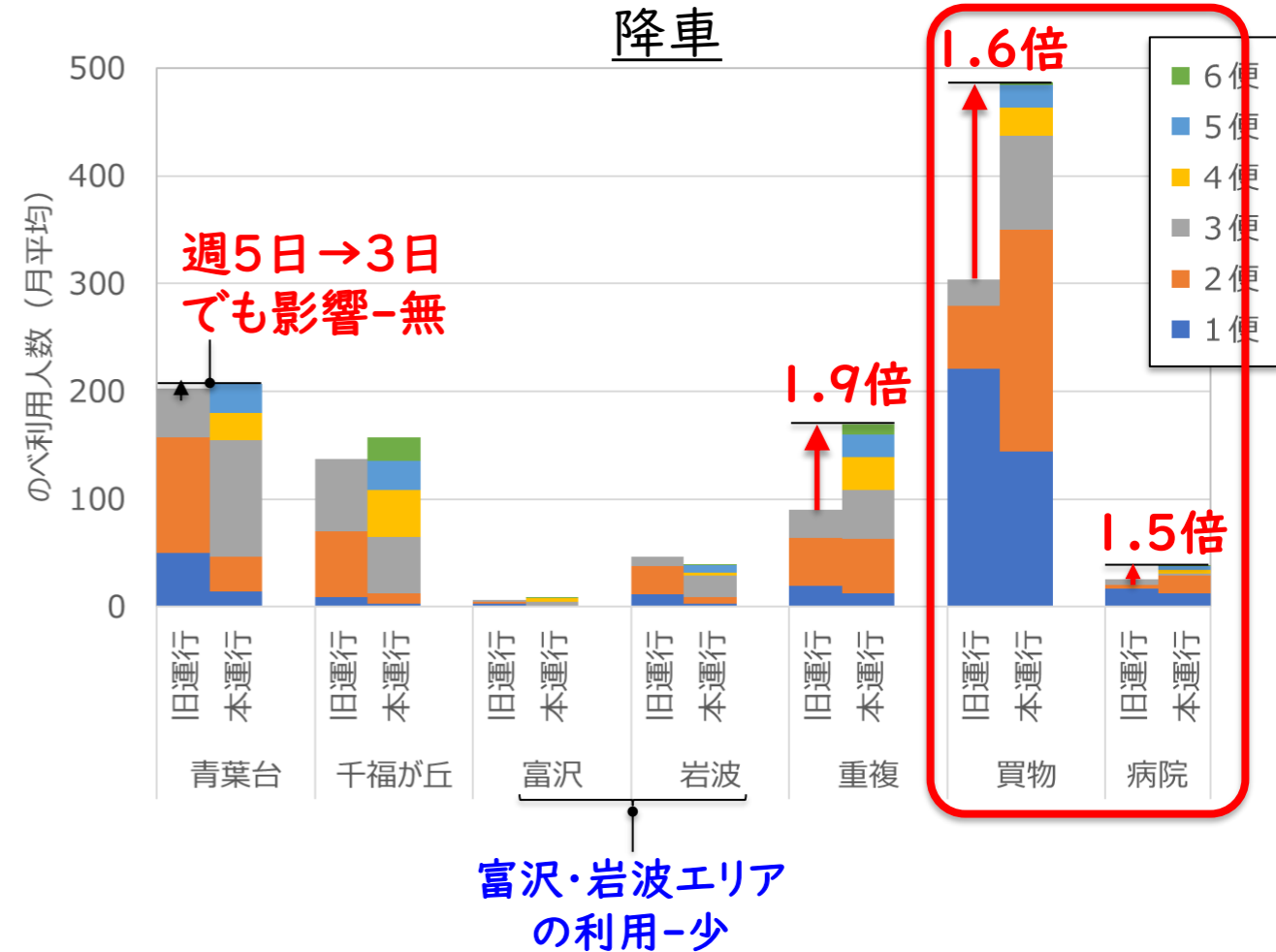
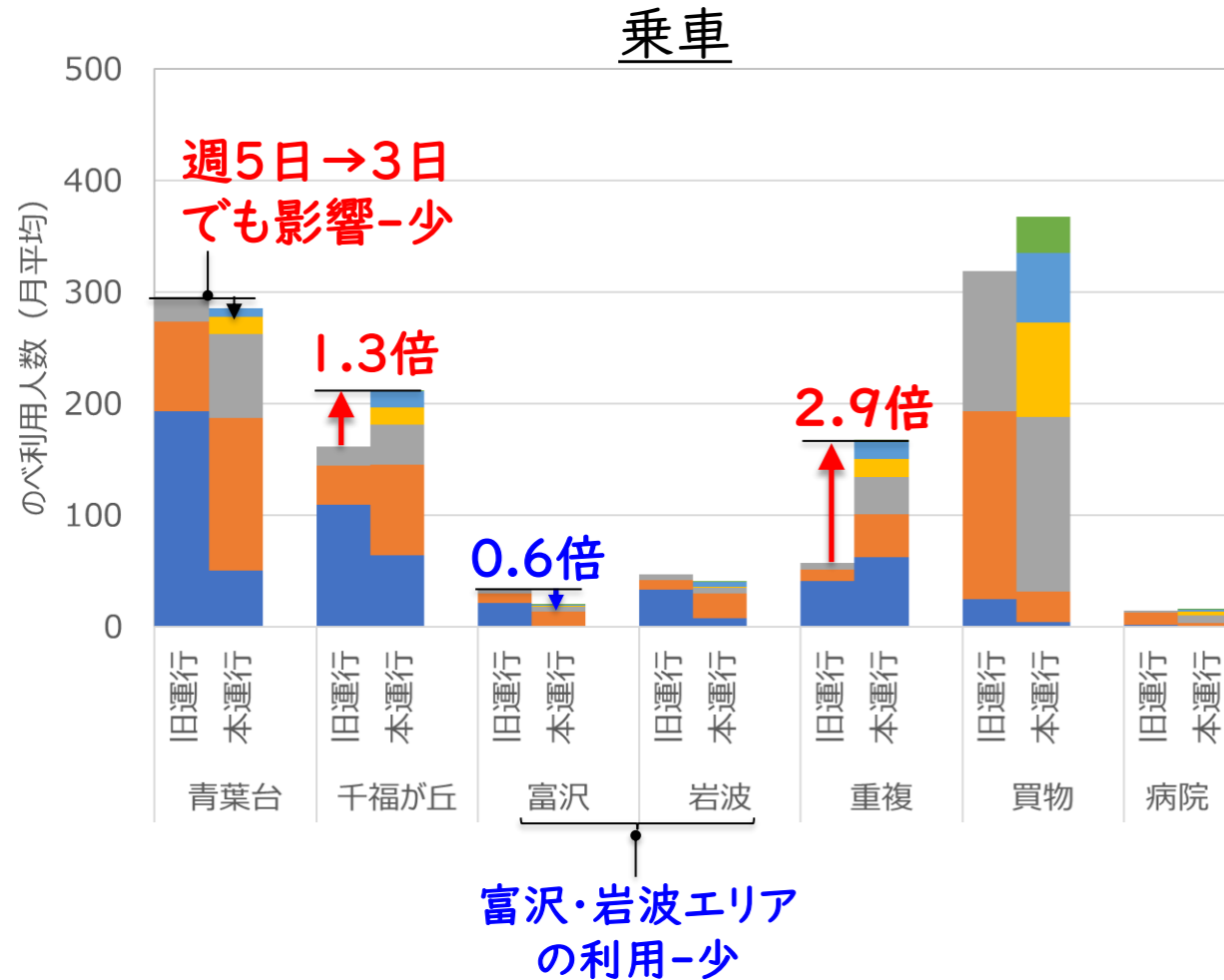
## データの結果

赤字：改偏の効果

青字：改編の課題

旧ルート：2022.10～2023.9

新ルート：2024.10～2025.9



買物・病院エリアへの利用が1.5倍以上に増加

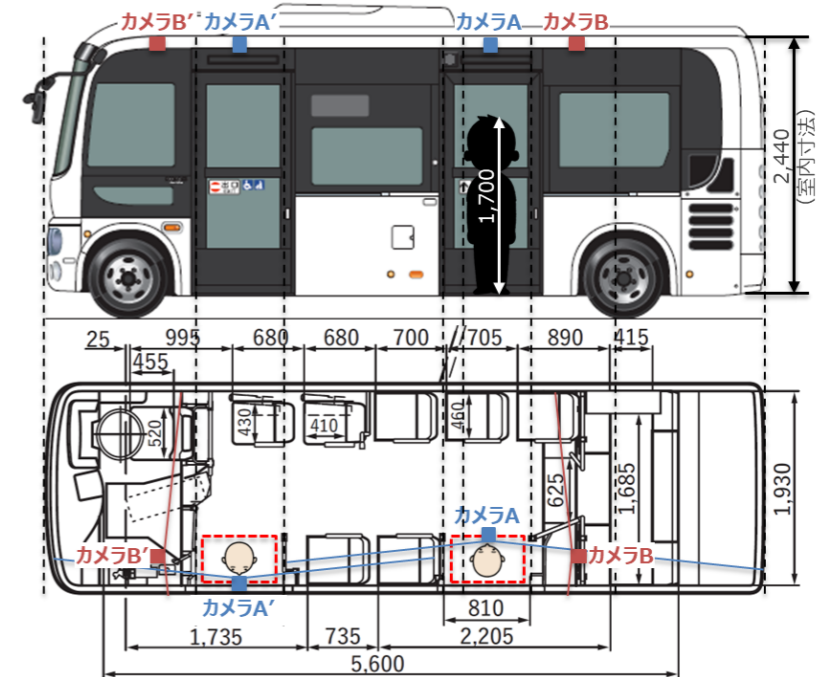
# 『どこから乗って、どこで降りたか』の自動調査の検討

運転手さんが運行時にメモする  
バス停ごとの乗降人数

課題：どこから乗って、どこで降りたかわからない

カメラを使って  
乗車→降車の自動調査を検討

※協力：富士急シティバスさん

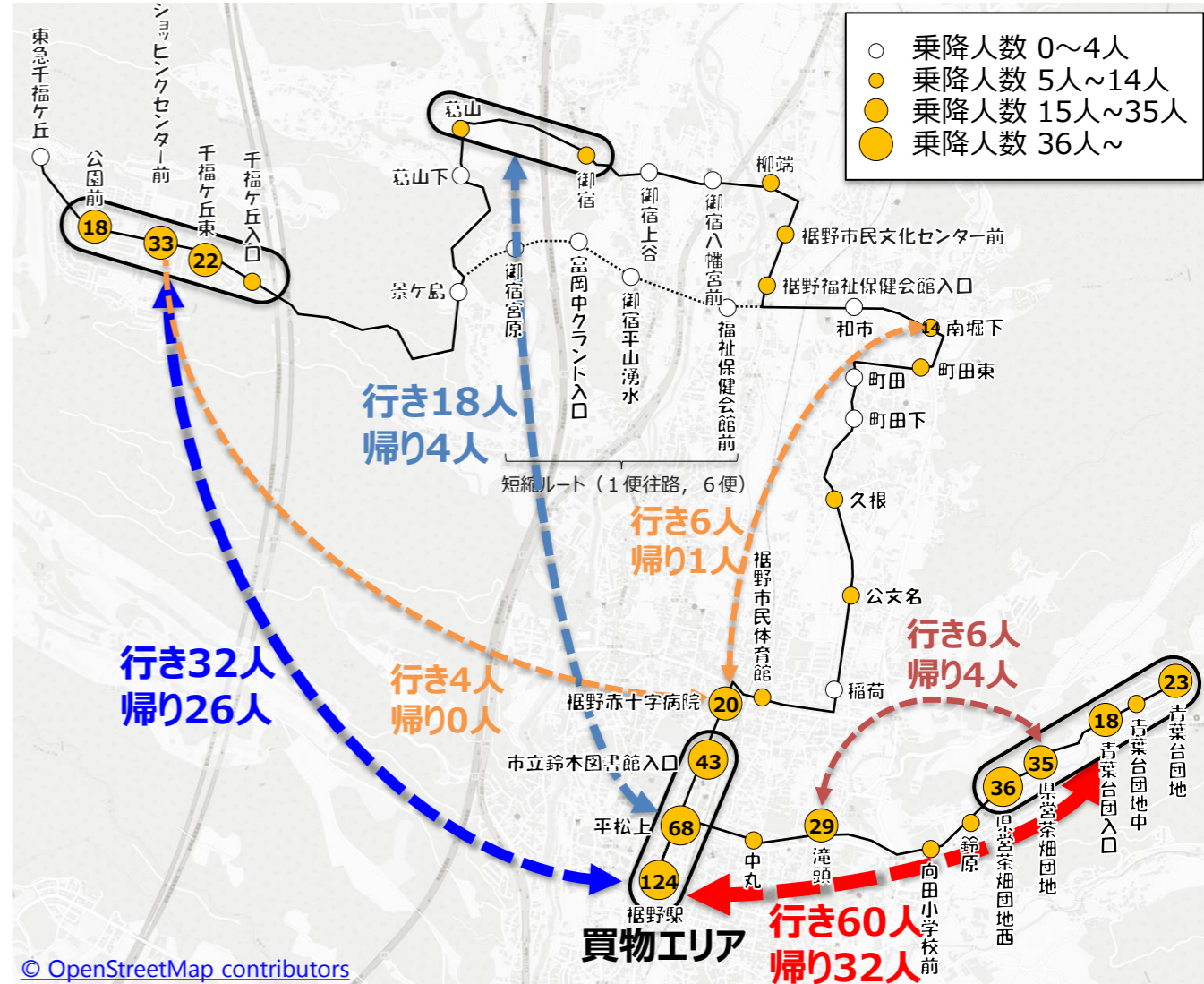
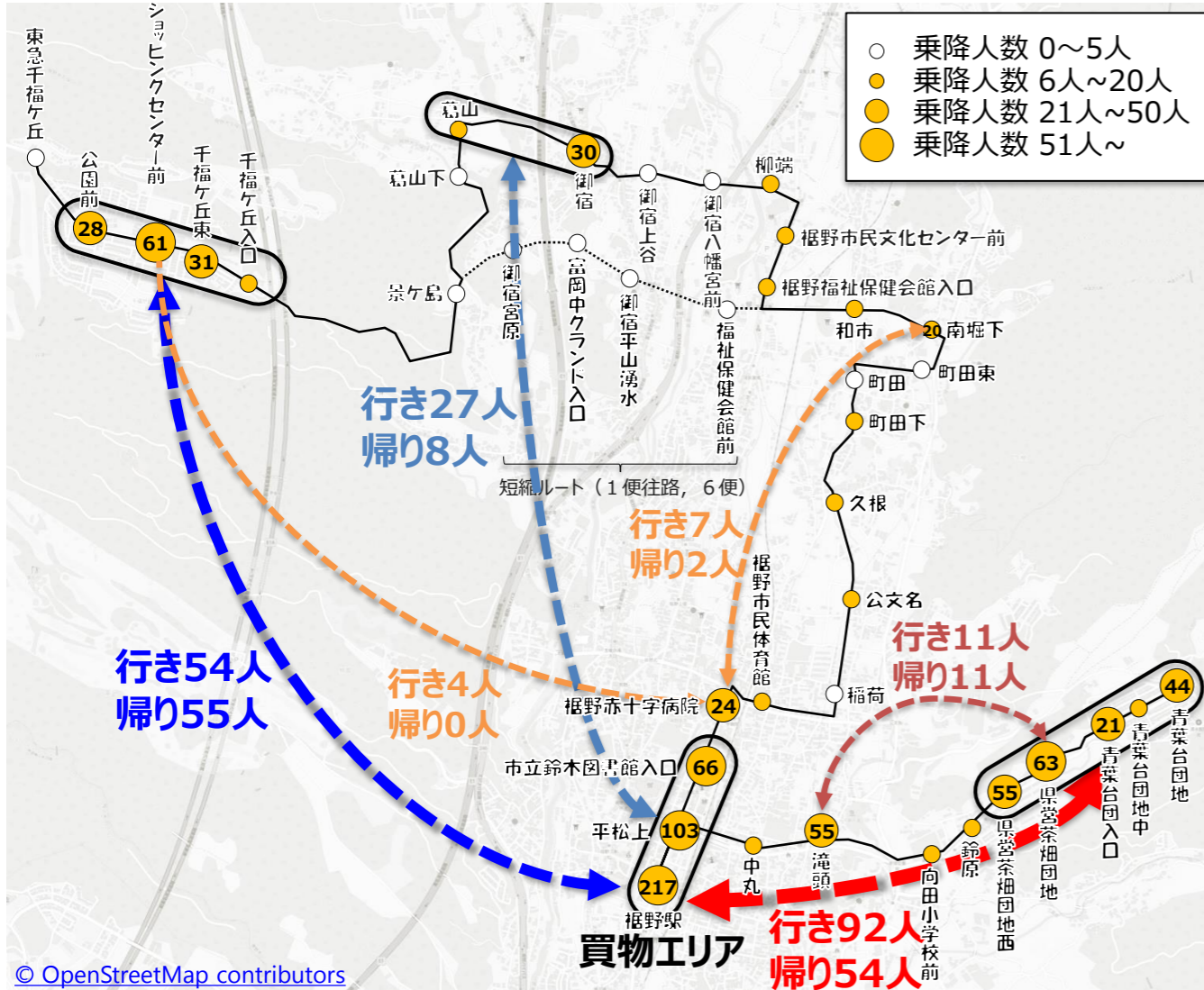


# 主な利用者の動き（2025年8月、東西線）

データ取得できた11日間

動画を目視によって確認（正解データ）

動画を自動解析（約7割の正解率）



利用者の動く傾向が把握できるようになった



Frontier Research Center  
TOYOTA

## 1. 新旧バスルートの利用者数の比較

- 裾野市内循環線の改編により、**利用者は約1.4倍**に増加
  - ・ 特に、買物・病院エリアの利用者数が増えた
- **南北線**（富沢、岩波エリア）は利用者が少ない

## 2. 『どこから乗って、どこで降りたか』の自動調査の検討

- カメラを使って自動調査し、**利用者の動く傾向を掴むこと**ができるようになった